

—— 小学生用 ——

共生社会理解のための動画

「みんなちがってみんないい」

活用案

2021/01/22 Ver.0

## この動画の使い方

この動画は、人はそれぞれ違いがあり、その違いが社会を形成していることを学習するための教材です。

それぞれのチャプターの視聴前後に、どのようなワークをするかを提案していますが、先生方の考えやクラスの状態に合わせて、それ以外のワークをご活用いただくことも可能です。

障がいのある人たちに対する理解を深めることは、自分も不完全で良いというアイデアに繋がることでもあります。

何もかも完璧に出来る人などいません。自分のことも他人のことも出来ることを認めあえる関係性や、その習慣を身に付けることに役立つように考えて作られています。

近年問題となっている、障がい児、特に発達障がい児の学校での受け入れについて、関西学院大学の丹羽登教授に解説して頂きました。この教材をより効果的にご利用いただくためにも、チャプター6, 7にある動画を先にご覧ください。

こちらの教材は、「動画を見る」と「ワークショップ (WS) を行う」の二部構成になっています。指導したいことの状態により、動画視聴の前または後にワークショップを行います。ワークショップでは、生徒同士の発言を促し、自主性を重んじながら、先生方はファシリテーターとしてサポートしていきます。

## 動画活用のヒント

こちらの教材から以下のようなことを学習することが出来ます。

1. 誰にでも得意・不得意はある。  
(自分の得意は誰かの不得意に値することもあるので、どうすればそれを補い合えるかを考えます。)
2. 誰もが、誰かに助けられ支えられて生きている。
3. 感謝の気持ちを忘れない。
4. 最悪に見えることが最良のことになる可能性がある。  
(ピンチはチャンス)
5. 人と違っていてよい。自分には自分の良さがある。
6. 弱点や欠点に見えることも、それをうまく使えば誰にもまねできない強みになる。  
さかなくん <http://www.sakanakun.com/>  
東田直樹 <https://naoki-higashida.jp/>  
似鳥昭雄 <https://mamanochiwatashi.com/nitoriakio/> 等
7. 見え方、聞こえ方は人それぞれである。  
(正負はないことを知ることが多様性理解につながります。)
8. 一番になれなくても、好きなことを一生懸命やるのが素敵なことである。  
(どうせやったって、レギュラーになれない、あの子の方がうまい、等を気にせず好きなことを一生懸命頑張れるのが子ども時代であること、そしてそれをするから強かつ優しくなれることをガンバ大阪の選手たちの言葉から学ぶことができます。)
9. マイノリティとマジョリティ  
(人は、仲間外れを作りがちですが、誰もがマイノリティになる可能性がある)

ります。仲間外れを作るのではなく、どうしたらその人とも仲間としてやっていけるかを考えます。)

10. 欠点は伸びしろである。

(欠点のない人間はいないので、欠点=悪い物と決めつけずに、欠点があるからそこを良い方向に伸ばすことで最強になれることを学べます。)

11. 幸せの価値観

(障がいがある人も不幸を感じずに生きている人もいます。五体満足でも不満だらけで不幸せを感じながら生きている人もいます。どこに違いがあるかを考えることが出来ます。「出来ないことを数えるよりも出来ることを数える」というパラリンピックの精神がここで役立ちます。)

12. 困っていることを周囲に伝えてよい。

(勉強でもスポーツでも、困っていても伝えられずに、そこで立ち止まってしまふ子供たちも多くいます。勿論、家庭の問題もあると思いますが、それを伝えてもからかわれない環境を作ることにつなげていけます。)

13. 共生社会について考える。

(障がいがある個人の問題で、その個人が頑張っ克服するものではなく、社会が全ての人にとって住みやすい状態になることが共生社会です。そのために自分たちの出来ることを考えたり、街がどうなっていたら良いかを考えたりすることが共生社会への一歩でもあります。)

これ以外にもたくさん学習できることがあると思います。この教材を使う年齢やタイミングで色々工夫して頂けたら嬉しいです。

## 【動画を使ったワークショップの手順】

### ①動画の閲覧

ワークショップに該当する動画を DVD のチャプターより再生してください。

### ②ワークショップ（WS）

ワークショップは必要に応じて行ってください。ワークショップの提案（参考例）がありますが、形式は自由です。先生が抱えるテーマを元にアレンジしてご使用ください。

## 【ワークショップ（WS）時のファシリテーション時の注意点】

先生が答えを出すのではなく、生徒が答えを出せるように導くことがポイントです。合意形成や相互理解をサポートし、ワークショップの活性化・生徒同士の会話を促進させてみてください。

### CHAPTER1 ガンバ大阪選手自己紹介動画

WS ワorkshopの提案（参考例）

2～3人一組になって自己紹介します。その後、

- ① 友達について新しい発見の有無
- ② 「友達を紹介」するワークを行う。

このようなワークをすることで、自分の知らない一面を人は持っていることを子どもの中に学習できます。

このワークショップの目的は、誰もが得意なことも苦手なこともあり、苦手なことは得意な人に教えてもらう、助けてもらうことで、今までより出来るようになる可能性があることを認識することです。

### CHAPTER2 パラアスリート自己紹介動画

WS ワorkshopの提案（参考例）

事前に、障がいのある人に対して自分たちが持っているイメージについて話し合います。（多くの場合マイナスのイメージが出てくると思います。

例：不自由、大変など）

① 実際に動画を見て、自分たちのイメージと変化があったかを確認します。

② では、なぜ自分たちは、マイナスのイメージを持っていたのかを話し合います。

このワークショップでは、障がいが個人の問題ではなく、周囲の環境が整備されていないという社会的な問題に起因していることに児童が気付くことがポイントとなります。

### 【ガンバ大阪選手自己紹介動画とパラアスリート自己紹介動画の目的と意図】

障がい者と健常者の違いは、自分の足で歩けないといった身体的な問題ではなく、社会が整備されていないことに起因していることを自ら発見するのがこのワークの目的です。体に障がいがあっても、人としての義務も権利も全うできるような社会とはどんな社会か？ 障がいがあるから行動が制限されるとすれば、何が問題で、どうすればそれを解決できるのか？

精神障がい者の問題などを例に挙げて、障がいとは何か？福祉とは何か？という部分の理解を深めていくことが出来ると思います。

## CHAPTER 3 感覚過敏の人たちの見え方、聞こえ方の VR 動画

### WS 提案

① 自分達が、その立場であったらどう感じるか？

② このような人達の特性を生かせることがある？

(音楽家には聴覚過敏者が多い。アーティストには、視覚過敏者が多くいることを伝える。) 一見、短所や欠点に見えることも、その特性を生かせれば、他の人に真似できない強みになることを認識できます。欠点は欠点にあらずとい

うことに気付くことが、このワークショップの目的の一つです。

また、何か残念なことが起こったときも、実はそれが、自分にとっての大きな転換期になることも、このWSや動画で学ぶことができます。

## 【感覚過敏の人たちの見え方、聞こえ方のVR動画の目的と意図の補足】

(音楽家には聴覚過敏者が多い。アーティストには、視覚過敏者が多くいることを伝える。) 一見、短所や欠点に見えることも、その特性を生かせれば、他の人に真似できない強みになることを認識させられます。

参考動画 全盲で自閉症の歌手 CODI LEE

<https://www.youtube.com/watch?v=85v6DC2343E>

14歳で自分の障がいをきっかけに会社を立ち上げた中学生  
(株)クリスタルロード社長

<https://crystalroad.jp/>

## CHAPTER 4 —— 見え方は違うの動画

📖 目 的 —————

すべての人は見え方、考え方の違いがあることを知る

### ワークショップ提案 (参考例)

(1) 動画の閲覧

(2) 動画閲覧後のワークショップ

物事は、立ち位置や考え方など様々なことで見え方が違ってきます。  
正しさではなく、違いを理解する一助となることを目的とします。

## CHAPTER 5 未来を担うみなさんへ 宇佐美選手・昌子選手動画



📖 目的 —————  
苦手なとこと、得意なことがみんなあることを知る  
—————

WS 提案

- ① これらの動画から何が分かったかをグループで話し合います。
- ② 日々の生活で、自分たちのマイナス面を考える癖があるかのチェック。

どんな場所や場面でマイナスを見ているかを出し合う。

- ③ 周囲の人の良いところを発見するワーク

(自己紹介動画とも関連してきます。)

このセクションでは、ボランティアの定義づけも一つのテーマになります。生活の中で少し人の手助けになることをやってみようという考えに至ることもこの動画の目的です。例えば、後から来る人のためにドアを抑えておくなど、普段の生活の中で出来る手助けは、自分も周りの人も住みやすい環境を作ることにつながります。

今までのボランティアは、誰でも時間と労力があれば出来るものが多かったのですが、欧米諸国では、医師や弁護士などのプロフェッショナルが、業務上の専門性をもってボランティアとして行う「プロボノ」が当たり前になりつつあります。昌子選手は、それを積極的に実行しようとしていると言えます。チームで半分仕事の様に行っている人たちは多々いますが、個人で行っている人は未だ少ないのが実情です。

失敗を積み重ねなければ、成功には至らない。子どもであっても、勉強やスポーツにおいて日々の積み重ねや練習が大切であることは、頭では理解していると思います。しかし、実際にその場になると「笑われる」「また出来なかったらどうしよう」等いろいろな考えが頭をよぎり、最終的にやらないという結論に達してしまうことも多いと思います。

これらの動画やワークを通して、人はみな違って当たり前であり、話し合わなければ理解しあえないことや、違うからこそ、協力できたときに大きな力になることを認識できると考えます。

パラリンピックの精神は、「出来ないことを数えるよりも、出来ることを数える」だと私たちは考えています。違いを認め、自分の出来ることからスタートして、出来なかったことが出来るようになる面白さを、この動画をきっかけに沢山の子ども達に知っていただけたら嬉しいです。

## 【未来を担うみなさんへの目的と意図の補足】

これらのワークの目的は、人は誰もが不完全な存在であり、それを恥じる必要はないことを理解・認識することです。また、自分の気づいていない良いところを人に発見してもらうことで、自己肯定感につなげることができます。人と比較する必要もないことを感じることも大事なことです。自分の不完全さが、実はノビシロであり可能性であることに気づくことを目的の一つとします。

社会はどんどん変容しています。様々な人がいてこそ社会であり、その基本の考え方を子ども時代に身につけ、さらに変化し続ける社会に適應できる大人になるために、この時期に考えて頂きたいことを、この動画にまとめました。

(以下のチャプターは、先生向けの解説動画になります。)

**チャプター6 共生社会実現のための多様性を理解する**  
(関西学院大学 丹羽教授)

**チャプター7 配慮や支援が必要な子どもの理解と対処方法**  
(関西学院大学 丹羽教授)

発行 池田市教育委員会  
著作 NPO 法人パラキャン  
協力 関西学院大学 丹羽登教授  
(株) TRESURNEY